

財政指標から見る財政状況

国は自治体の財政破たんを未然に防ぐため、「健全化判断比率」という指標を用いて、財政状況を明らかにしています。この「健全化判断比率」は、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4つの指標からなります。白糠町の数値は、いずれも国が定める基準（早期健全化基準『イエローカード』、財政再生基準『レッドカード』）を下回っています。

実質赤字比率

福祉、教育、まちづくりなどを行う町の一般会計などの赤字の程度を指標化したものです。この比率が高いほど、財政状況が厳しいこととなります。

赤字額なし（前年度：赤字額なし）
早期健全化基準15.00%、財政再生基準20.00%

実質公債費比率

町債（借金）などの返済額の大きさを指標化したものです。この比率が高いほど、財政状況が厳しいこととなります。

8.2%（前年度：8.0%）
早期健全化基準25.00%、財政再生基準35.00%

連結実質赤字比率

一般会計などのほか、水道、下水道などの公営企業会計を含めた町の全会計での赤字の度合いを指標化したものです。この比率が高いほど、財政状況が厳しいこととなります。

赤字額なし（前年度：赤字額なし）
早期健全化基準20.00%、財政再生基準30.00%

将来負担比率

今後町が支払うこととなる負担など、将来の財政を圧迫する可能性の度合いを示します。この比率が高いほど、今後の財政状況に問題が生じる可能性が高いこととなります。

47.1%（前年度：72.7%）
早期健全化基準350.0%

資金不足比率

資金不足比率とは、各公営企業の資金不足（赤字額）が、事業規模と比較してどれくらいの割合かを示すものです。国が定める経営健全化基準20.0%以上となると、経営健全化に取り組まなければなりません。対象となる会計は、水道事業会計、簡易水道及び飲用水道供給事業（特別会計）、公共下水道事業（特別会計）の3つです。

資金不足はありませんでした。

赤字額なし（前年度：赤字額なし）
経営健全化基準20.0%



ふるさと納税で、まちの食材や体験等のお礼の品を贈呈し、白糠町のPRや交流人口の増加を図りました。



将来のまちを支える人材を育成するため、「青年就業者海外等研修事業」を行いました。



野菜生産を推進するため、新たな人材が野菜作りに取り組みやすい環境づくりを推進しました。